

政務活動費（公明党会派）出張報告書

平成30年11月19日

氏名 浦岡 昌博	用務 「地方から考える社会保障フォーラム」 セミナー参加
期間 平成30年11月14日から 平成30年11月15日まで	出張先 東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル

調査事項・意見

【日程】

11月14日

- 13:00~14:30 講義1、子供の貧困—現状と課題
厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長 成松 秀範氏
- 14:40~16:10 講義2、障害者も健常者も自立できる「社会を目指して」
厚生労働省 発達障害者支援室長 山口正幸氏
- 16:20~17:50 地域包括ケアの成功例、失敗例に学ぶ
小平学・まちづくり研究所所長 山路憲夫氏

11月15日

- 10:00~11:30 2040年から考える社会保障
厚生労働省大臣官房審議官 伊原和人氏
- 12:30~14:00 地域共生社会を考える社会保障
中央大学法学部教授 宮本太郎氏

【内容】

別紙参照

【所感】

本セミナーは厚生労働省の政策担当者や、専門家から直接に生の社会保障政策について聞くことが出来、大変有意義で今後の参考になった。

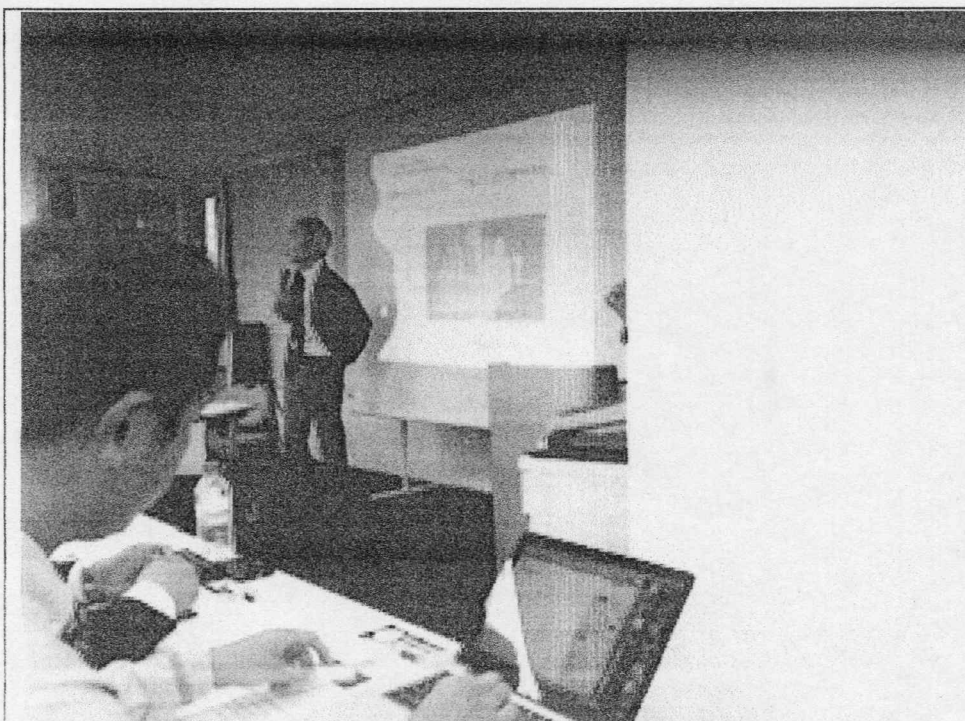
特に、「地域包括ケアの成功例、失敗例に学ぶ」と題した山路所長の講義は非常に興味深いものであった。

団塊の世代が皆な後期高齢者となる 2015 年を前に、地域包括ケアシステムの構築が急がれるが、市町村に委ねられた応用問題が多すぎて暗中模索している状況である。講演のなぜ先進事例なのかで指摘されているように、第三者評価の仕組みがなく自らの客観的評価が出来ず、地域住民も自らの市町村の取組み状況、達成度が判断しにくく、他自治体との比較、特に先進事例の取組みを参考にすることは不可欠である。との指摘に同感する。私自身これまでも、一般質問において大分県各市の地域ケア会議の方式を参考にすべきことを提案したところである。

今回のセミナーで取り上げた下記の先進事例自治体について今後研究していきたい。

- ・千葉県柏市（強力な推進役＝東大と行政m¥に日本柱）
- ・兵庫県豊岡市（健康づくりと看取り体制の構築）
- ・奈良県生駒市（認知症対策と医療介護連携＝地域支援事業）
- ・埼玉県和光市（地域ケア会議を柱にした要介護の把握と対策）
- ・東京都稲城市（介護ボランティアによる高齢者の支え合い）
- ・東京都国立市（在宅医療を中心とする多職種連携）
- ・栃木県（在宅医療、医療・介護連携の支援と第三者評価）

以上





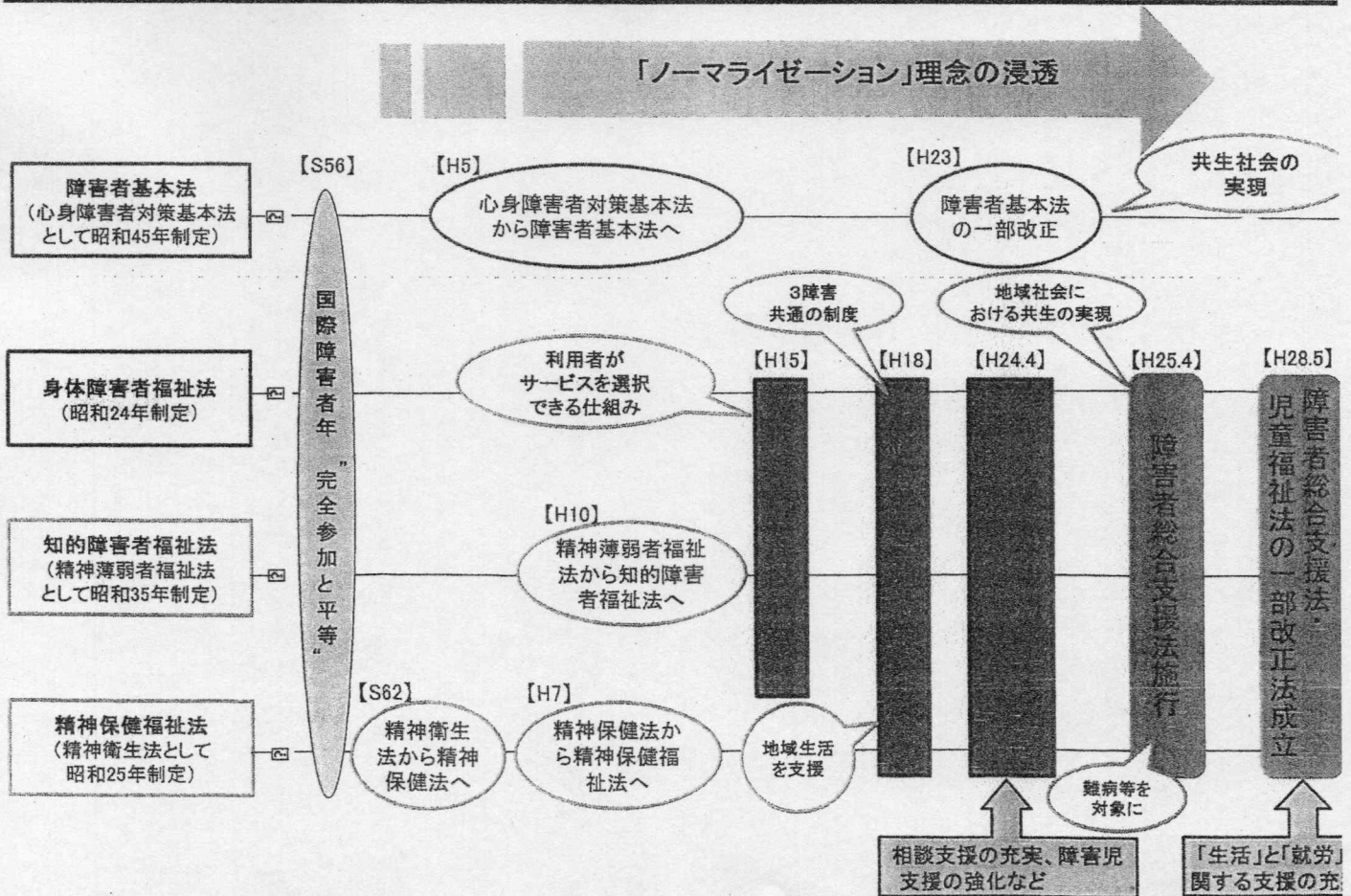
子どもの貧困—現状と課題

厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長
成松 英範

子どもの貧困に関する現状

1 障害福祉施策の経緯

障害保健福祉施策の歴史



先進事例と平均的自治体との比較から考える 地域包括ケアの推進策(その1先進事例)

白梅学園大学小平学・まちづくり研究所

山路憲夫

なぜ地域包括ケアなのか

- 人類が経験したことがない超高齢人口減少社会
⇒長寿化、後期高齢者と認知症の増加、大都市部の高齢化
(2025年から2050年)
- 介護保険と家族介護の限界
- 日本の医療制度の制度疲労と社会保障の限界
- 地域で生活全体を支援していく必要性
- 財政上の問題(国の膨大な借金と財源不足)
- 行政の限界(行政だけでは解決できない)
- 地域の絆の再構築⇒我が事丸ごと地域共生社会